

授業概要

高校生以前の教科書・資料集・年表などで見てきた「歴史的事実」は、何を根拠とし、如何にして「歴史的事実」であると考えられるようになったのでしょうか。本授業では、古代から中世に至るまで、高校以前の日本史でも習うような事柄について、その根拠となった史資料そのものを実際に読むことで、ただ単に「歴史的事実」を暗記的に覚えるのではなく、その「歴史的事実」が如何にして組み上げられたものかについて講義します。

授業では実際にいくつかの史資料を音読していただきます。その史資料にどのようなことが書かれているのかを考え、その内容から、各回扱う「歴史的事実」について、なぜそう言えるのかを検証します。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	基礎知識について(官職名、旧国名、史料と資料、など)
第 3 回	史資料とデータベース—インターネットを駆使して—
第 4 回	『日本書紀』の信憑性—「郡評論争」から—
第 5 回	律令の系譜
第 6 回	遷都・宮都の変遷と史資料
第 7 回	天皇による歴史書の改竄—『続日本紀』と『日本紀略』—
第 8 回	摂政・関白の成立と展開
第 9 回	藤原道長の登場—貴族の日記を題材に①—
第 10 回	「不死の天皇」の成立と展開—貴族の日記を題材に②—
第 11 回	史料からみる源平合戦—院政は如何にして破綻するか—
第 12 回	中世における「女帝」の可能性
第 13 回	鎌倉幕府と朝廷
第 14 回	写本調査と史資料保存
第 15 回	まとめ
第 16 回	期末レポート

到達目標

- ・史資料という根拠に基づく論理的思考力を伸ばすことができる。
- ・日本史を暗記科目として捉える意識を改めることができる。
- ・史資料は書き下し・現代語訳も提示するが、漢文・古文の原文を読めるようになることができる。

履修上の注意

- ・高校の日本史 B 程度の情報を把握しておくこと。
- ・「日本史学入門」「日本史特論(近世以前)」の授業を受講していると望ましい。
- ・大学生・成人としての自覚と責任を以て授業に臨むこと。

予習・復習

- ・【予習】授業中に、取り上げた史資料の音読・現代語訳をして頂く。毎回事前に授業レジュメを配布するので、きちんと読んでおくこと。
- ・【復習】授業後、配布レジュメを読み直し、ノートを整理しておくこと。

評価方法

学期末に実施するレポートと、毎回授業時のコメントペーパーで評価する。
レポート(70%)、授業態度(コメントペーパー含む)(30%)

テキスト

教科書は指定しない。参考書：漢和・古語・日本史などの辞典類。
その他、関係する文献について、授業中に適宜紹介する。